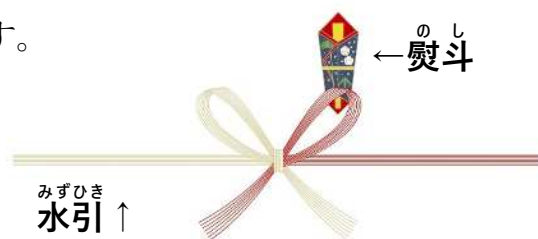


にほん おくもの 日本の贈り物

にほん おくもの どくとく つつ かた
日本の贈り物には、独特な包み方があります。

おくもの こ おくひと きも
それは贈り物に込めた贈る人の気持ちを

あらわ
表しています。



おくもの おくりゆう おくひと なまえ か か がみ みずひき
贈り物には、贈る理由と贈る人の名前を書いた「掛け紙」をかけます。そして「水引」

でくくり、かけ紙の右上に「熨斗」を付けます。この形式は神様への献上品に細い

しめなわ なま あわび そ なごり い
注連縄をかけ、生の鮑を添えた名残と言われています。

みずひき いろ ほんすう むす かた のし しゆるい る ー る いま にほんじん
水引の色、本数、結び方、熨斗の種類にはルールがあります。今では日本人でも

きちんとわかっている人は、あまりいないのではないのでしょうか。

みずひき 水引

みずひき きげん せつ
水引の起源にはいくつかの説があります。

ひと あすかじだい せいきお せいきはじ けんずいし おののいもこ
その一つに、飛鳥時代(6世紀終わりから8世紀始め)に遣隋使の小野妹子が

きこく とし ずい げんざい ちゅうごく どうれいし も けんじょうひん あかしろ そ あさ
帰国する時に、隋(現在の中国)の答礼使が持ってきた献上品に赤白に染めた麻

紐が掛けられていました。これが、宮廷への献上品を赤白の麻紐で結ぶ始まりと

なつたと言われています。そして平安時代以降に、麻紐を色のついた水に浸して

引きながら染める作業から、「水引」とよばれるようになったと言われています。

室町時代(14世紀中頃から16世紀中頃)になると、明(現在の中国)が日本への

輸出品に、他の物と見分けるために、赤白の縄を付けていました。それを日本側

が贈り物に付けるものと誤解し、以後日本では、贈り物を赤白の紐で結ぶことが

習慣となつたと言われています。またこの頃から、麻紐の代わりに和紙を糊で固め

て色を染めた紙縴りを使うようになりました。これが今に見られる水引です。

水引は、贈り物を包んで留めるだけでなく、贈り物が未開封であるという印、魔よ

け、人と人を結びつけるといった想いが込められています。また結び方、色や

本数によって、贈る人の心を表します。

お祝いごとには、赤白、金銀などで、奇数本(3・5・7本。婚礼のみ両家から5本ず

つということで10本)の水引で、「結び切り」、または、「蝶結び」にします。弔事に

は白黒、双銀、白黄などで、偶数本(2・4・6本)で、「結び切り」にします。

「結び切り」は、二度とほどけないように固く結び、

「何度もあってはいけないこと」に使います。



「蝶結び」は、ほどいてまた結ぶことができる

ので、「何度あってもよいこと」に使います。

婚礼はお祝いごとですが、縁がほどけないように「結び切り」を使います。

のし 熨斗

のし 熨斗とはもともと、^{あわび うす そ}鮎を薄く削いで、^{ひ のし むかし あいろん}火熨斗(昔のアイロン)で平らに引き伸ばし、

^{かわ}乾かしたもので、「熨斗鮎」が省略されたものです。^{あわび ちょうじゅ えんぎ}鮎は長寿をもたらす縁起の

^{た もの}よい食べ物、そして^{そな ところ きよ い み}供えた所を清める意味として^{かみさま そな}神様へ供えられました。

「熨斗」には「引き延ばす」という意味もあるので、^{ちょうじ}弔事には

^つ付けません。また、^{せいせんひん おく もの}生鮮品の贈り物にも、^{じたい なま}それ自体が生もの

なので^つ付けません。



←^{のし}わらび熨斗

^{のし かくしき たか おく もの おりのし りやくしき}熨斗は格式の高い贈り物には「折熨斗」、略式では

^{かざ のし ちょうはな かんい}「飾り熨斗」、「蝶花」、簡易なものには^{はんのし}「判熨斗」、

「わらび^{のし}熨斗」などを^つ付けます。

まとめ

^{にほん おく もの けいしき ふくざつ み}日本の贈り物の形式は複雑に見えます。ですが、^{なに あらわ}何を表しているのかを知ると、

^{おく ひと おも}贈る人の想いがひと目でわかるようになっています。

^{げんだい ゆびいっぽん おく もの とど じだい}現代は指一本で贈り物が届けられる時代になりました。

しかし、^{よ わる}良くも悪くもこんなに^{べんり じだい いま ころ}便利な時代の今こそ心をこめた^{おく もの}贈り物は、^{あ わた}会って渡

すことに^{い み}意味があるのではないのでしょうか。

じぎょうすいしんがかり
事業推進係からのお知らせ

ぶんかこうりゆう じょうほう ことば じょうほう
<文化交流ひろば情報コーナーをご利用ください>

にほんごがくしゅう じょうほう がいこくじん せいかつじょうほう たげんご ていきょう
日本語学習の情報や外国人のための生活情報などを多言語により提供します。

ばしょ ねりま くひかり おか
【場所】 練馬区光が丘3-1-1

でんわ
【電話】 03-3975-1252

かいせつにちじ へいじつ ごぜん じ ごご じ ど にち しゆく ごご じ じ
【開設日時】 平日（午前10時～午後1時）、土・日・祝（午後1時～4時）

ねんまつねんし ぶんかこうりゆう きゅうかんび のぞ
※年末年始など「文化交流ひろば」休館日を除く

たいおうげんご えいご か もく ど ちゅうごくご すい きん にち かんこくご げつ
【対応言語】 英語（火・木・土）、中国語（水・金・日）、韓国語（月）

た げんご と あ
※その他の言語はお問い合わせください。

がいこくごそうだんまどぐち りょう
<外国語相談窓口をご利用ください>

ちいきしんこうかじぎょうすいしんがかり えいご ちゅうごくご かんこくご たがろぐご にほんご
地域振興課事業推進係では、英語・中国語・韓国語・タガログ語・日本語でいろい
ろな相談ができます。電話での相談も受け付けます。

ばしょ ちいきしんこうか くやくしよほんちようしゃ かい ねりまくとよたまきた
【場所】 地域振興課（区役所本庁舎9階） 練馬区豊玉北6-12-1

でんわ
【電話】 03-5984-4333

かいせつにちじ へいじつ ごご じ じ
【開設日時】 平日（午後1時～5時）

たいおうげんご えいご げつ きん ちゅうごくご げつ きん かんこくご きん たがろぐご げつ
【対応言語】 英語：月～金、中国語：月～金、韓国語：金、タガログ語：月

た げんご と あ
※その他の言語はお問い合わせください。

にほんじん がいこくじん こうりゆう いべんと かいさい くわ
<日本人と外国人が交流できるイベントなどを開催しています。詳しくはこちら>

くこうしき
【区公式HP】 <https://www.city.nerima.tokyo.jp/gaikokunohitomuke/bunka.html>

コード
【QRコード】



ねりまうちいきしんこうかじぎょうすいしんがかり
練馬区地域振興課事業推進係

〒176-8501

ねりまくとよたまきた
練馬区豊玉北6-12-1

ねりまくやくしよほんちようしゃ かい
練馬区役所本庁舎9階

でんわ
電話03（5984）4333

e-mail:CHIIKI17@city.nerima.tokyo.jp

へんしゅう ぶんかこうりゆう
編集：文化交流ひろば

ひかり おか
(光が丘3-1-1)

たげんごじょうほうしえんいん
多言語情報支援員

わたぬき みほ えいごたんとう
綿貫 美穂 (英語担当)

ほりごめ よしみ ちゅうごくごたんとう
堀籠 慶美 (中国語担当)

はん みよんひょうん かんこくごたんとう
韓 明 鉉 (韓国語担当)